



ポツダム宣言は、どんな内容だったの



日本が戦争を終わらせるには、無条件降伏し、民主的・平和的な国になるしかないという内容だよ。

1945年7月17日からドイツのポツダムで、アメリカ・イギリス・ソ連の首脳会議（ポツダム会議）が開かれました。その最中の7月26日に、アメリカ・イギリス・中国の三国共同宣言の形で、ポツダム宣言が発表されました。これはアメリカが、用意していた宣言を、イギリスのチャーチル首相と、中国の国民政府主席の蒋介石（電信で連絡した）の同意を得て、発表したものです。

ポツダム宣言の内容

この宣言は、日本が戦争を終わらせるには、受け入れなければならない条件を示したもので、内容は次の通りです。日本国民をだまして、戦争に引きずりこんだ者の権力・勢力を、永久に取り除くこと。平和・安全・正義の新しい秩序（社会が乱れないための規律）ができるまで、連合国が占領すること。日本の主権がおよぶ範囲（領土）を、本州・北海道・九州・四国と、連合国が決める小島に限定すること。軍の武器を完全に引き上げること。戦争犯罪を犯した者をばっし、言論・宗教・思想の自由と基本的人権を尊重すること。被害をあたえた国への賠償を行い、軍事産業を禁止すること。民主的・平和的な政府ができれば、占領軍は引き上げること。無条件降伏を宣言すること。この宣言を受け入れない場合は、速くて完全な破滅があること。

日本政府の黙殺が、原爆投下のきっかけになった

7月28日に鈴木貫太郎首相は、軍の圧力もあって、ポツダム宣言を「黙殺する（無視してとりあわない）」と発表しました。この発言を外国は、「ポツダム宣言の受け入れをこぼんだ」と受け取りました。その結果、広島・長崎への原爆投下という、「速くて完全な破滅」が実行されたのです。

